

WAY monthly

2025
5

発行: 創造的教育 WAY シンガポール校

IELTS の効果的な勉強方法

IELTS で高得点を取るためには、段階的かつ論理的な学習法が効果的です。以下に、その手順を紹介します。

① 予習を徹底する

まず、予習段階では、本文中の知らない単語をすべて調べ、語彙力を強化します。そのうえで問題を解き、解答の根拠となる箇所に下線を引き、該当する問題番号を記入しておきます。こうすることで、なぜその答えになるのかを論理的に検証できるようになります。

② 教師による採点を受ける

解き終えた後は、教師に採点してもらいます。客観的な評価を受けることで、自分の理解度を正確に把握できます。

③ 間違えた問題を自力で修正する

重要なのは、間違えた問題を教師に頼らず自分で見直し、正答へと導く力、すなわち「修正力」を養うことです。ここで教師がすぐに解説してしまうと、本来自分で身につけるべき「得点力」が育ちません。生徒には、文法や語彙を基礎として、どこで間違えたのかを多角的に分析させます。英語の解釈に誤りがあったのか、筆者の主張や論理を理解できなかったのか、あるいは根拠の読み取り自体を間違えたのかを、自分で振り返らせることが重要です。

このようなトレーニングを積むことで、英文法強化クラスを修了した基礎力のある生徒は、正確な修正が自力でできるようになります。もちろん、どうしても自力で解決できない場合は教師が指導しますが、その割合はごくわずかです。

④ 満点を目指す練習と時間管理

こうした学習の過程を経た生徒は、やがて満点を取れるようになります。次のステップとして、時間内に問題を解く訓練に入ります。ここでは、スピードと正確性の両立が求められます。

この段階へ早く進める生徒の特徴として、文化資本、すなわち読書経験や知識の蓄積が豊富であることが挙げられます。しかし、たとえそうした背景がない生徒であっても、1年間しっかりと指導を受ければ、予習段階で満点を取る力を身につけ、次の段階へ進むことが十分可能です。

次回は、IELTS のスコアを大きく左右する「語彙力」についてお話しします。国際基準の試験で高得点を取るには、それに見合った語彙力の習得が不可欠だからです。

英文法強化クラス

英語の基礎は、単語と英文法を徹底的に強化することによって作られます。多くのインター生は英文法を学んでいないので、ブロークな英語のまま放置されています。それは、まるで液化した土地に建物を建てていることに似ています。WAY では、岩の上に家を建てるように、嵐が来ても、びくともしないしっかりとした基礎を作ることを目指しています。そうすることによって、更なる英語力を伸ばす土台を作ります。

IELTS クラス

現在、英語の教材のリーディングテキストとしては、IELTS の教材が最も優れていると私たちは判断しています。読む力以上に、ライティングやスピーキングの力が上がることはありません。IELTS クラスでは、論理的に英語を読む訓練を徹底的に行っています。また、IELTS の読解を通して、TOEFL の点数を上げるために、TOEFL 無料講座を動画で提供しています。このクラスからでも、慶應大学や早稲田大学に合格する生徒がいます。

SAT クラス

欧米、シンガポールのトップレベルの大学、および日本のトップレベルの大学を突破できる力をつけるクラスです。現在の欧米の入試テストで最も難易度の高い英語の教材で指導しています。このことによって、TOEFL や IELTS テストに余裕を持って臨むことができ、高得点を取ることができます。こうした難易度の高い英文には、英語を論理的に読むという訓練が必要です。論理力がない限り、高度な英語力を培うことはできません。このクラスからは毎年 IB スコアで 40 以上（今年は 45 の生徒が出ました）が取れるライティング指導もしています。また、TOEFL 100~110 点以上を目指しています。指導期間が必要ですので、お早めにご相談ください。

日本語クラス

日本語クラスでは、論理的に読むこと・書くことを基礎から応用 (IB レベル) までの日本語を指導しています。特に、インター生の場合は、インターで優れた教員についている場合、論理力がある程度身に付いています。その力をさらに引き出すことで、高度な日本語をマスターできる方法を開発しました。論理力を身に付けることで、正確な思考力が養えます。それによって、IB の日本語での高得点が取れ、かつ英語のライティングも精緻な構成力を持った論文が書けるようになります。(このクラスからケンブリッジ大学、シカゴ大学、シンガポール国立大学、インペリアル・カレッジ・ロンドン、東京大学などの合格者を出しています。) 論理的な思考力なくして、IB で高得点を取ることは不可能です。日本の教育では、論理をほとんど教えていません。しかし、国際社会で生き抜くためには、論理力が必要不可欠だと私たちは考えています。